

第65回岡山県美容技術コンクール 競技要綱

【花嫁化粧着付競技の部】(ボディ使用)

☆ 日 時 令和7年6月16日(月)
選手受付 8:10~9:00
※時間厳守(遅れると受付ができない場合があります)

☆ 会 場 岡山市中区門田本町4丁目1番16号
岡山国際ホテル

☆ 全競技に関する注意事項

- ①出場者は受付を済ませ必ず9時までに選手控室にて待機すること。
- ②出場取消しについては、特別な事情がない限り、1週間前までに 組合事務所 (Tel 086-222-3221) に連絡のこと。
- ③エントリー料は如何なる理由があろうとも返金できません。
- ④参加賞(Tシャツ)及び、お弁当はありません。
- ⑤各種目、エントリー者数が3名未満の場合、競技種目の除外等の規定を設けています。
- ⑥各種目、エントリー者数が6名未満の場合、優勝賞金の授与はありません。トロフィー及び賞状のみの授与となります。
- ⑦業務の都合上、電話でのお問い合わせ、質問等はお受けできません。ご質問等は、FAX及び、下記アドレスのEメールでお問い合わせ下さい。

<お問い合わせ> FAX: 086-223-7455
Email: info@ba-okayama.or.jp

☆ 全競技に関する禁止事項

- ①選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は白いもの、下は黒または濃紺のスカートまたはスラックスとし、帽子は禁止する。靴はヒールの低いものとする。
- ②選手は、ガムを噛んだり、口の中に物を入れて出場してはならない。
- ③選手・モデルは控室以外で飲食してはならない。
- ④競技中、選手同士またはモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ⑤競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ⑥競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑦控室は、受付終了後から閉会式終了後まで、監視員以外出入りは禁止です。
- ⑧館内禁煙です。喫煙所以外での喫煙はしないでください。
- ⑨ゴミの持ち帰り、後片付けなど社会人としてのマナーをお守りください。

(1) 出場資格 有資格者

(2) 競技時間 ○長襦袢着付までの作業 控室にて作業 . . . 20分
○大振袖着付、帯結びの作業 競技ステージにて作業 . . . 20分

(3) 競技内容 ~ 花嫁お色直し大振袖(おはしより)着付 ~
通常、披露宴でのお色直しとして用いられるもの。

- (4) **競技方法** 競技は、「ボディ修正、長襦袢着付」までの作業と「大振袖着付、帯結び」の作業に分けて行う。
 長襦袢着付までの作業は監視委員立会いの下に控室等で行い、「大振袖着付、帯結び」の作業は競技ステージで行う。
 長襦袢及び大振袖の衿とじは、事前に済ませて来るものとする。(長襦袢の衿芯は自由とし、三河芯に半衿をつけたもの、その他、特別に考案・加工されたものも可)

(5) 禁止事項

- ①帯に形付けをしたり、帯結びの過程につながる過度のたたみ方をしておくことは認めない。
(抱え帯を含む)
- ②帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ③着物及び長襦袢のふり合わせは、とじてあってはならない。
- ④帯あげは縫ってあってはならない。
- ⑤極端に完成されたボディ補整用具の使用は認めない。
- ⑥ボディ補整のパットやタオルはとじ付けてあってはならない。
- ⑦おはしより芯の使用は認めない。
- ⑧袖の錘用の板紙等の使用は認めない。
- ⑨ものさし類の使用は認めない。
- ⑩競技終了後、選手はボディに一切触れてはならない。
- ⑪助手の使用は一切認めない。(ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従って助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。)

(6) 制限事項

- ①帯結びの型については、立て矢系の「相生」とする。
- ②帯あげは、入りの字型とする。
- ③帯じめは、中心で結ぶこと。
- ④前身頃の衿の縫目と「おはしより」の縫目はそろえること。
- ⑤長襦袢及び大振袖の衿とじは、事前に済ませて来るものとする。(長襦袢の衿芯は自由とし、三河芯に半衿をつけたもの、その他、特別に考案・加工されたものも可)

(7) 衣裳持込みに際しての禁止事項

- 大振袖
 - ①身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
 - ②比翼(裾)は、つけてある所から、裾ふきまで一切表布にとじてあってはならない。
 - ③立て袂の比翼は、胴裏につけてある所から衿つけで表布にとじてあってはならない。
 - ④芯を入れるなどの加工をしてはならない。
 - ⑤袖付にあて布があってはならない。
- 長襦袢
 - ①衿は白無地とする。
 - ②上下セパレートのもの認めない。
 - ③巡礼衿は認めない。
 - ④後衿の力布は、あってはならない。(衿抜き用の細ひもは可)
- 帯と抱え帯
 - ①特定のひだの折り癖が強くつけられているものは認めない。
- 着付小物
 - ①肌着・裾よけ帯枕は特別に考案・加工された、特殊な型式のものは認めない。
 - ②コーリンベルトの使用は認めない。

※競技用具は、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

(8) その他の注意事項

- ①帯結びに使用するひもは、腰ひも又は何重のゴム仮ひもでもよい。
- ②立矢の帯の中に芯を使用してもよい。(ただし、大振袖着付・帯結びの作業時間内(20分)で行うこと。)
- ③ボディに肌着を着せておくこと。

- ④ボディの脚の長さを65cm～75cmとする。（百日草ボディ参考）
- ⑤足袋で審査を行う。事前に足袋はコットンなどを入れて形を整えてボディの台の上付けておくこと。
- ⑥アイロンは使用できない。
- ⑦控室に電源の設備はない。
- ⑧競技ステージへのボディの搬入は選手の手持ちとする。着付用具他は衣裳箱に入れて助手に持たせ係員の指示に従って搬入する。この時の助手は必ず入場券を購入しなければならない。
- ⑨競技ステージへボディ搬入後、競技前にチェック時間を設ける。
- ⑩競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑪審査中のボディのポーズは図のとおりとする。扇子はボディの為、持たせません。〔資料図参照〕

(9) 競技用具の準備（選手が準備するもの）

- (a) ①大振袖（事前に衿とじを済ませたもの） ②丸帯 ③草履 ④長襦袢（事前に衿とじを済ませたもの。衿芯は自由とし、三河芯に半衿をつけたもの、その他、特別に考案・加工されたものも可） ⑤五点セット（帯じめ、帯あげ、抱え帯、扇子、はこせこ） ⑥着付用ボディ ⑦衣装敷（並判） ⑧舞台競技用衣裳箱（氏名は裏に記入）
- (b) 小物付属品「足袋、肌襦袢、裾よけ又はワンピース型肌着、腰ひも、仮ひも、伊達巻き（2本）、ボディ補整用具（綿花、タオル、さらし又はガーゼ類）、帯枕、帯板、クリップ」
- (c) 裁縫用具一式

(10) 審査 技術性・調和性などを総合して審査を行う。

